

Kビジョン放送番組審議会（2019年3月12日）

放送番組審議会（第21期第2回会合）では、『防災座談会』、『からくり時計が見つめた歴史～下松タウンセンターの25年～』を合評しました。

<合評番組>

■防災座談会

2019年1月1日(火)～4日(金)、6日(日)放送

昨年7月の「西日本豪雨」で被災した下松市笠戸島、光市周防地区、周南市三丘地区の住民をパネリストに、被災時の対応、災害の検証と防災のあり方について、座談会形式で考える番組。防災工学が専門の三浦房紀山口大学副学長をコーディネーターに、地域が災害にどう立ち向かっていくべきなのかを考えました。

■からくり時計が見つめた歴史～下松タウンセンターの25年～

2019年1月1日(火)～6日(日)放送

1993年にオープンした下松市の大型商業施設「ザ・モール周南」。オープン25周年の節目となった昨年はリニューアルに伴い、経営権を持つ会社が変わったり、一部のフロアで休業状態になったりするなど大きな変革を遂げました。番組では地元商業者ゾーン「星プラザ」内にあるからくり時計に焦点を当て、25年の変遷をふり振り返りながら、「星プラザ」やテナント業者の取り組み、これからの意気込みを取材しました。

<合評内容>

■防災座談会

- ・パネリスト3人が早めの避難開始が重要だと話したことに對し、視聴者はどの程度その意図をくみ取っているか気になる。日ごろから準備しておくことなどについて、もう少し突っ込んで紹介できると、視聴者への呼びかけにつながるのではないか。正月の時期に特別番組として放送しているが、5～6月の大雨や災害の発生が想定される時期に再放送をすると、災害に対する行動に結びつけることができるのではないか
- ・近年は、自治会内でも隣り近所など住民とのつきあいが少ないのが現状で、番組を見て近所とのあり方、付き合い方を考えさせられる番組と感じた
- ・番組を各地の自主防災組織に配布して、研修の教材として活用を呼びかけてみてはどうか
- ・3人の経験談や教訓にしたことを見て、改めて自分たちの身近で大きな災害が起きているということを実感した。今後も被災した地域のことしの状況や対策について取材し、安心感を与える内容も紹介してほしい

- ・災害という重いテーマを1時間の番組にうまくまとめてあり、深い内容だと感じた。難しい内容をわかりやすく説明しているが、被災状況の写真や映像をも入れ込んで紹介すると、視聴者に伝わりやすいのではないか。また災害への対応など重要なポイントの説明では、字幕スーパーや図を入れて視聴者に訴えかけるとよい
 - ・ドローンの映像は客観的に災害の状況や大きさを伝え、効果的だと感じた。災害から半年以上が過ぎ、被災地の現状を再びドローンで撮影し、変化を紹介してみてもどうか。その一方で、報道が取材した映像や写真は被害のピークを過ぎて撮影したものが多く、現場の状況を出し切ることの難しさを感じた。地元には最も被害の大きな時を撮影している人もいるので、そうした人たちを通して画像を提供してもらったり、各地に特派員として、地元の人に状況を伝えてもらうシステムを取り入れてみてはどうか
- などのご意見をいただきました。

■からくり時計が見つめた世界～下松タウンセンターが見つめた25年～

- ・下松市のまちづくりを垣間見ることができた番組だと感じた。まちづくりの参考できる映像もあり、地元でも生かしてみたいと感じた
 - ・タウンセンター造成以前にあったタンクヤードの歴史などを紹介してもらえると、当時を懐かしみながら下松市の繁栄・発展を改めて感じることもできたのではないか
 - ・星プラザ商店主らのインタビューは、明るさの中にもプライドを持って取り組む意気込みが感じられる。地元の人たちから見た変化の大きさを荒削りながらもうまく表現している
 - ・13分の番組の中で25年のまちづくりの歩みを見て取ることができた。今後、まちづくりについて何か掘り下げる番組づくりのきっかけになるのではないか。下松・光・周南の3都市のまちづくりをテーマに掘り下げてみる番組を企画してみてもどうか
- などのご意見をいただきました。

出席者は、徳永豊委員長、なかはらかぜ、西岡雅宵、金子功一、畑八郎の各委員、社側から杉田昌士代表取締役社長、矢田民也専務取締役、ほか放送制作部員4名でした。